

JF大分 水産おおいた 発行元 大分県漁協

令和元年度 女性部新役員

大分県漁協女性部第62回通常総会が7月4日(木)に水産会館で開催された。浪井部長の挨拶後、来賓の山本組合長、農林中金福岡支店泉俊彦次長が挨拶を行った。議長には山下千鶴氏(白杵支部)を選任し、平成30年度事業報告及び収支決算書の承認について、令和元年度事業計画書及び収支予算書案の承認について、会費の賦課・徴収方法及び徴収時



女性部総会

期について、任期満了に伴う役員改選についての4議案が可決された。新役員は、部長に浪井洋子氏(下入津支部)、

新役員は、部長に浪井洋子氏(下入津支部)、副部長に紀野道子氏(佐賀関支部)、監事には中根真理子氏(杵築支部)と岩田秀香氏(保戸島支部)、岡崎郁氏(中津支部)、中山早苗氏(白杵支部)が選出された。本年度の重点活動目標は、組織の活性化、漁協事業への積極的参加・協力、漁家生活の改善、海を守る運動の推進、食糧普及活動の推進、募金運



女性部新役員

BLUE放流

一般社団法人日本釣用品工業会 略称JAFITMA、会長は島野容三氏はLOVE BLUE放流としてヒラメとイサキ種苗の放流を大分県内で計画している。具体的には、ヒラメ種苗は7月に別府支店と国見支店で、イサキ種苗は10月に佐賀関支店と米水津、上下入津支店で予定している。このうち、別府支店で



ヒラメ種苗の積み込み

動の推進を掲げた。なお、青年部の通常総会は7月13日(土)に水産会館で開催され、全議案可決された。は7月2日に日本釣用品工業会、県漁協別府・本店、県市、大分県漁業公社、マスコミの関係者が参加し、ヒラメ種苗約2万2千尾が放流された。



ヒラメ種苗の放流

水難救済会 通常総会



ヒラメ種苗放流

7月3日(水)に、元年度第21回大分県水難救済会通常総会が32名(会員数44名)の出席のもと水産会館で開催された。議事は30年度事業概要報告及び収支決算、役員改選案、元年度事業計画案及び収支予算案の5議案であった。

新役員としては、新たに会長に麻生栄作大分県議会議長が選出された。その後、大分海上保安部交通課中村専門官による安全講和が行われた。漁村の環境整備の促進と資源の確保)の説明、全国漁港漁場大会提出議題の決議、決議文朗読等を行った。



元年度水難救済会通常総会

大会では、各県提出議題 漁港漁場整備長期計画の着実な推進と財源の確保、社会資本計画(海岸事業)の推進と重要なインフラの機能維持に関する財政支援、漁港・漁場・漁村の環境整備の促進と資源の確保)の説明、全国漁港漁場大会提出議題の決議、決議文朗読等を行った。

編集後記

梅雨が明け、暑い日が続いています。現在、チャット高気圧と太平洋高気圧のダブル高気圧に日本は覆われている。2018年7月23日に埼玉県熊谷市で歴代1位の41.1℃を観測した時も、このダブル高気圧下であったとのこと。

これから、夏の猛暑・熱中症、夜の熱帯夜に対し体調管理を怠りなく。

九州地区漁港漁場大会

令和元年度九州地区漁港漁場大会が7月18日